祝

日本遺産認定

絹の国ふるさと祭りin甘楽

甘楽町にある甘楽社小幡組由来碑など3件が日本遺産「かかあ天下―ぐんまの絹物語―」に認定されたことを記念し、6月21日に道の駅甘楽隣の小幡公園などで「絹の国ふるさと祭りin甘楽」を開きました。

写真上　メイン会場の小幡公園
写真右　小学生記者が座繰りを体験

「かかあ天下と絹で町おこし」と題した座談会（旧松井家住宅）や町内の小学生記者15人による絹遺産マップづくり、また「外国人が見た甘楽町と絹遺産」と題したとりまとめセッション（信州屋）など盛りだくさんの内容でした。

小学生記者たちは取材の合間に防村和子さん（観光案内の会会員）のご厚意で、座繰り（繭から糸をたぐりながら糸枠に巻き取ること）の体験もしました。完成したマップは歴史民俗資料館で配布していますので、ご覧ください。

県内在勤の外国語指導助手（ALT）らが参加したとりまとめセッション

町の魅力を発信　商工観光展 in 北区を開催

～友好都市のきずなを強く～

町では７月３・４日、地方創生事業の一環として、友好都市である東京都北区の「北とぴあ」で初の試みとなる大規模な商工観光展を開きました。

町の特産品や楽山園などの観光スポットをPRし、北区民に町の魅力をアピール、また“住みやすい町甘楽”を売り込みました。

会場では、桃太郎ごはんの無料提供や甘楽産の新鮮野菜が人気を集め、特にナスやキュウリなどの詰め放題コーナーが賑わいました。

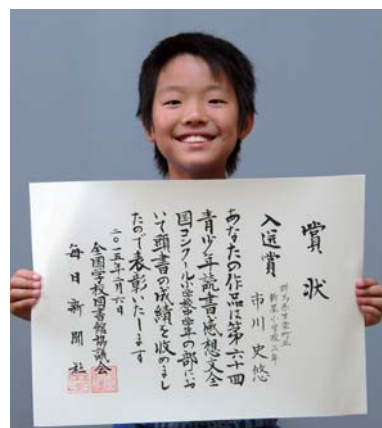
写真上　会場の北とぴあ飲食スペース
写真右　新鮮野菜の詰め放題コーナー

その他、地粉ピザや地酒、直輸入のイタリアワインなどにも注目が集まりました。

また、住宅団地や工業団地の紹介のほか、地元企業は自社製品を展示・販売しました。

第60回青少年読書感想文全国コンクール
小学校中学年の部　全国コンクール入選

『かあちゃん取扱説明書』新屋小学校４年 市川史悠（しゅう）くん

　読書感想文が全国コンクールで入選したことにより、市川くんは８月17～23日に新潟県で開催される「日中韓子ども童話交流2015」のメンバーに群馬県代表として選ばれました。（日本から33人が選抜）
　これは日中韓の小学生100人が絵本や童話をテーマに交流し、相互理解と友情を育むことを目的に開催されます。市川くんは「日本人以外にも中国人や韓国人とも友達になりたいです」と話してくれました。
　市川くんが３年生の時書いた全国コンクール入選作品を紹介します。

　この本を読み終わったとき、「これはお母さんには読ませないようにしよう。」と思いました。哲哉君の「かあちゃん取扱説明書」をそのままお母さんにためしてみたくなったからです。
　ぼくは夕飯にハンバーグが食べたくなったので、ちょっとためしてみることにしました。「お母さんの世界一おいしいハンバーグが食べたいな。」
　けれどお母さんは、「時間がかかるからだめ。今度ね。」と言って、ぜんぜんききめがありませんでした。哲哉君のかあちゃんとうちのお母さんは少しせいかくがちがうみたいなので、ぼくは自分でお母さんのトリセツを作ってみることにしました。
　まずは、ゲームをしていてもおこられない方ほうを考えてみました。お母さんはいつも、「やるべき事をやってからにしなさい。」と言います。ぼくがやるべき事は、しゅく題と、次の日のじゅんびと、おふろそうじです。ぼくは、やるべき事をやってしまえば、ゲームができるかたしかめてみました。今日の分のしゅく題をやって、夏休みなのでじゅんびはなくて、おふろに行ってせんざいをスポンジにつけてごしごしあらってできあがり。お母さんにゲームをやっていいか聞くと、お母さんは、「やるべき事は?終わっているの?じゃあ、三十分だけね。」と言ってくれました。すごいと思いました。ぼくは朝からどうどうとゲームをしました。もう一ど、すごいと思いました。
　次は、やるべき事をしないでゲームができる方ほうを考えました。すごくたくさん考えたけれど、ぜんぜん思いつかないので、本をもう一回読みなおしてみました。お母さんは、「読書してるの。えらいじゃん。」と、うれしそうでした。ぼくはそれを見て気がつきました。やるべき事を先にしてしまえば、ゲームをしてもマンガを読んでもおこられないのはあたり前です。哲哉君の考えた、しゅく題をやりなさいと言われない方ほうで、イスにすわってノートを見てむずかしい顔をするのは時間のむだです。しかもしゅく題をしなかったので、学校で先生におこられます。やるべき事をしないでいる方ほうはありません。
　それよりも、ためしてみることがもう一つありました。お母さんに、スイミングで合かくしたよとか、夏休みのしゅく題がひとつおわったよなど、良かったことを話したら、お母さんは、「今夜、ハンバーグ食べたいんだっけ?」と聞いてくれました。「なんで?」とぼくがきいたら、お母さんは、「うれしかったから。」と答えてくれました。ぼくもうれしくなって、トリセツなんていらないと思いました。

利用しやすくなった“ふれあいの間”

　甘楽ふるさと館では、お客様のご要望や利便性向上のため、板の間だった“ふれあいの間”に絨毯を敷き詰めて、テーブル・椅子席に改装しました。
　また、車椅子でロビーからふれあいの間へ直接出入りができるようにもなりました。秋山館長は「多くの皆さんのご利用を！」と呼びかけています。